

1 研究授業

<研究テーマ>

多文化・多言語の豊かさに触れさせ、自己肯定感を高めながら、
日本語で授業に参加できる子の育成を目指して
～在籍学級を生きた学びの場にするための指導の追求～

<研究授業>

- ① 4年 JSL 国語科 単元名「未来につなぐ工芸品」(取り出し指導)
ふれあい教室2 授業者 永田直美 教諭



<大型テレビに提示> <モデル文を使って発表練習> <みんなの前で発表>

- ② 4年 JSL 国語科 単元名「未来につなぐ工芸品」(在籍学級)
4年1組 授業者 杉本優依 教諭



<タブレットで母国語支援>

<個別支援>

- ③ 3年 JSL 国語科 単元名「三年とうげ」(取り出し指導)
ふれあい教室1 授業者 鈴木彩希 教諭



<母国語の絵本を見る>

<写真で情景を見る>

<挿絵であらすじの確認>

2 グループワーク

① 4年 JSL 国語科 単元名「未来につなぐ工芸品」(取り出し指導)

ふれあい教室2 授業者 永田直美 教諭

<視点>

「子供たちが自ら日本語で授業に参加するための工夫はどうだったか。」

- ・写真、動画、実物など視覚的な情報の活用
- ・モデル文の提示(話す→書く→発表)



② 4年 JSL 国語科 単元名「未来につなぐ工芸品」(在籍学級)

4年1組 授業者 杉本優依 教諭

<視点>

「子供たちが自己肯定感を高める工夫・手立てはどうだったか。」

- ・学習形態(グループ)の工夫
- ・母語活用(タブレット)



③ 3年 JSL 国語科 単元名「三年とうげ」(取り出し指導)

ふれあい教室1 授業者 鈴木彩希 教諭

<視点>

「子供たちが自ら日本語で授業に参加するための工夫はどうだったか。」

- ・学習に生かせる教室環境
- ・板書(挿絵)の工夫



3 指導講評

「学びをつなぐ授業づくり」

浜松市教育委員会指導主事 江間成昭 氏

<導入→学び(理解支援・表現支援)→振り返り>

導入

目的：見通しをもつ。

学び(理解支援)

目的：言葉や概念が分かる(インプットできる)。

学び(表現支援)

目的：自分の考えを伝えることができる(アウトプットできる)。

振り返り

目的：教師が子供の学習状況を確認し、子供が学習の達成感を得る。

重点目標：理解・表現→安心・意欲

日本語指導の3つのポイント

①シンプル

②ビジュアル

③シェア